

建設トップランナー フォーラムin豊田

■4■

パネルディスカッションでは、建設トップランナー倶楽部の米田雅子代表幹事(慶応義塾大学教授)がコーディネーターを務め、基調講演を行った稲垣隆司・前愛知県副知事と、事例発表した梅村正裕・中部森林開発研究会会長、鈴木陽子・矢作川をきれいにする会長、馬淵和三山辰組社長の3人がパネリストとして参加した。

米田教授は、矢作川を「サイクルシステム」を開ききれにする会の活動が、発した中部森林開発研究会の梅村会長は「国内林を高く評価。鈴木会長は「夫や息子が漁に出てい間、陸(おか)に残った若妻たちが流域の工場や工事現場を回り『川を汚さないで!三河湾が死んでしまう』と訴え始めたのがきっかけです」と語った。

一方、樹木廃棄物の活用技術「ウッドチップリ

建設業独自の模索
1991年ごろから環

パネルディスカッション

森と水と生物多様性

環境保全意識の高まりに期待



生態系を守る建設活動の在り方について活発な意見を交わした

環境保全活動に力を入れて馬淵氏は「建設業は世にいる岐阜県揖斐郡大野町の山辰組。馬淵和三社長は、アユの遡上(そじょう)に適した棚田式魚道は、求人をしても若い人の研究を岐阜大学大学院が来てくれない。そこで、で続け、今春、57歳で農ひと味違う企業を目指す学博士の学位を取得した。

馬淵氏は「建設業は世にり組もうと考えた」と述べていた。環境保全活動の必要性を説いた。会場の参加者からは「森林資源を守れば、海が豊かになる」という話を聞いたことがあるが、どういふつながりがあるのか」との質問が出た。これを受けて農学博士の馬淵社長は「森の栄養分が川に流れ出し、植物性プランクトンや動物プランクトンを食べるため魚が寄ってくる」と循環の仕組みがある」と解説した。

最後に米田教授が「皆さんの力強い取り組みがCOP10(生物多様性条約第10回締約国会議)を契機に、全国へ発信され、豊かな森林や川、生態系を次世代に残していくため、いま何をなすべきかという議論につながっていくことを期待する」と締めくくった。(おわり) (北海道建設新聞「荒木正芳」)